

# 市民に直結する市政

新しい市政の仕事は、まず市民の声を市政に反映させていくことからはじめました。市民が、本当に腹をわって意見をのべること、また市民がお互に話し合うことが、市政をもちたてていく一番大切なことだからです。つまり、市民と市政との間が、温かい血潮で結ばれることが、新しい横浜をつくっていくカギなのです。

そうした交流のために、いろいろな方法をとってきました。いままで、小さな場所で行っていた市民相談を、思いきって市民広間に移し、市長や局長など市政の幹部が、直接に市民と相談しあうようにしたのもその一つの例です。また、各区にもあらたに区民相談室を設けました。

三十八年秋から始めた「市長に手紙を出す運動」は、今年で四回目になります。一回目には、一万二千六百九十二人の市民から、二回目は九千四百十九人の市民から、三回目は九千七百二十四人の市民からのたくさんの手紙を受け取りました。こんなに多くの市民が手紙で意見をのべた例は、全国どこにもありません。市民からの手紙は、市民のすべての地域から、老人も子供も、主婦、勤労者などあらゆる各層から寄せられました。その内容は道路やゴミなどについての不満から、苦情、市政に対

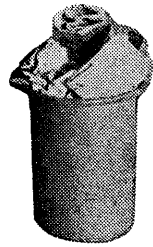
■ 住民集会	63回	6,760人参加
■ 市民相談室の件数	38年	7,646
	39年	12,103
■ 区民相談室の件数	39年	6,633
	40年	10,147

する批判や激励など、市政のあらゆる分野にわたっています。

市長はじめ、各担当者は、それらの手紙を一つ一つ読み、問題があるものは、実際にそこに職員がをかけて調べ、解決できるものはいつまでにどう解決するか、できないものはなぜできないか、どうしたらよいかについて連絡しました。こうして、市長と市民との間は、手紙によってしっかり心が通いはじめました。いままで、不満があってもいえなかった人、どこにいったよいかわからなかった人、市長と話しあえなかった市民が、自由に市政について発言し、苦情をぶちまけているのです。たとえば、これは一例です。

● 南区 無職 三三才 女

新開地の為か夏頃迄は一度もゴミの回収をして頂けず、近所の方達と穴を掘ってはうめていました。



最近では署名運動のおかげか月に一度位は集めて来て頂いて居ります。然し他のものと違い、たまってしまうと穴を掘っては捨てる現状です。

せめて、半月に一度位は集めて頂き度いと思えます。

● 西区 タイピスト 二九才 女

私ども低所得者層のための住宅を、もう少し考えて住宅難を解決していただきたいと思えます。

間借り生活の不自由を思いますと、精神病にでもなりそうになることさえあります。どうしても貸している方が強く、借りている方は弱いのです。自分を殺している方が多いと、積り積って気も狂いそうです。というわけで、住宅の件にも力を入れてほしいと思えます。

新倉が田中市長さんへ

松戸中学二年の女学生です。市長さんかやさいからしやる子  
どもをたいせつにする市役所、私たちにどくぐんでもつ欲しい  
とだと思ひます。たみら、さうして、市長さんに、お手紙を  
出せるのだと思ひます。

私たちの中学は、マシモ入生学校です。私が入学してから、し  
んが月たちました。学校にも壊れて落ちついた目をあてていま

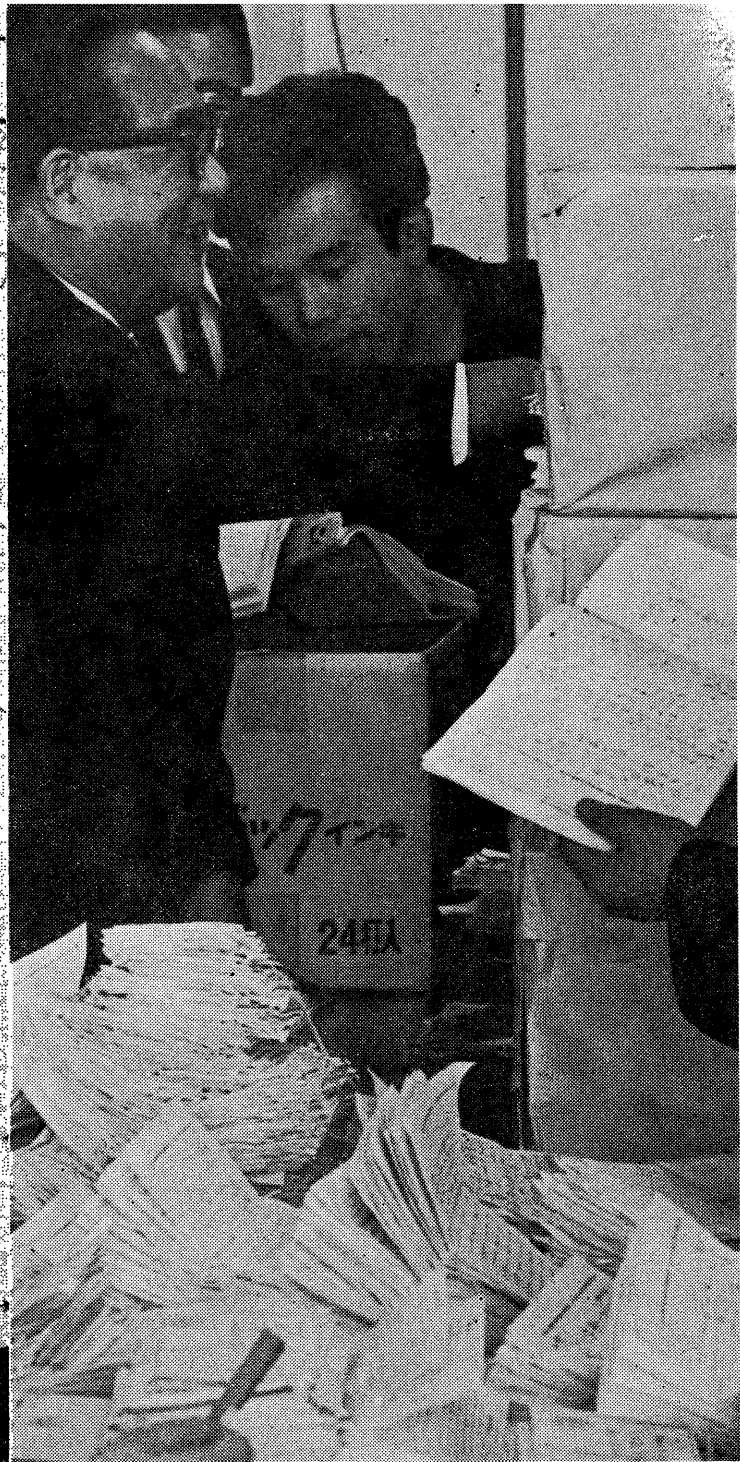
図書館やバスケットコート、それに一学期、えんがした新

校舎など施設には、恵まれてると思ひました。が、

つは、構造がないという、ことに不満です。校庭は、いま

おりの

おりの



●——保土ヶ谷区 学生 十六才 男

音楽は日常の中に溶けこんでいます。私たちはテレビ、ラジオ以外にレコードなどで聞いています。でも、よくをもうせば、歌手などに会いたいと思います。一番近くて駅ビルにきますが三十分もかかり、おまけにきっさ店なので私達学生は入れません。小さくてもいいんです。ただ、みんなのごらくのためにもお願いします。ごらくのためだけでなく、いろいろ、町内とかでやる会場に使ったりできるように。

芸能人は地方巡業によく行きますが、横浜はあまり来ません。近いからという理由もあると思いますが、場所がないということも理由の一つだと思います。

これで私の願いは終ります。

横浜のためにこれからも頑張ってください。サヨウナラ

●——港北区 主婦 五六才 女

前文失礼致します。

昨年の此のお便りで道路の舗装をお願い致しました港北東方町は、お陰様で平らな良い道になり町民皆さん喜んで居ります。ほこりも大変に違います。

第三国道川向インターチェンジの末端になる産業道路は、

名題の悪路で、通学する娘も笑話にする程バスの難行するコースです。

乗務員の方も大変でしょう。早く道路を広げて下さい。もう開け始めたかどうか、早く快適な日が送れる様にと、早く便利になってもらいたいと、老人さえも念じて居ります。

家屋の立退きも厭とは言わないと話をして居ます。

これも市長さんの人徳です。下から貴方を支持しているからこそです。

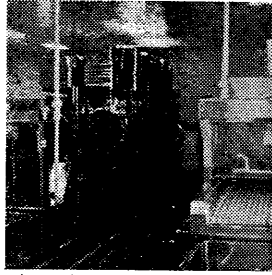
今一つのお願いは、当東方町附近には医院すらありません。急病の時は各人違った方法で遠くの病院にかけつけます。

何分の御配慮をお願い致します。

●——戸塚区 主婦 三五才 女

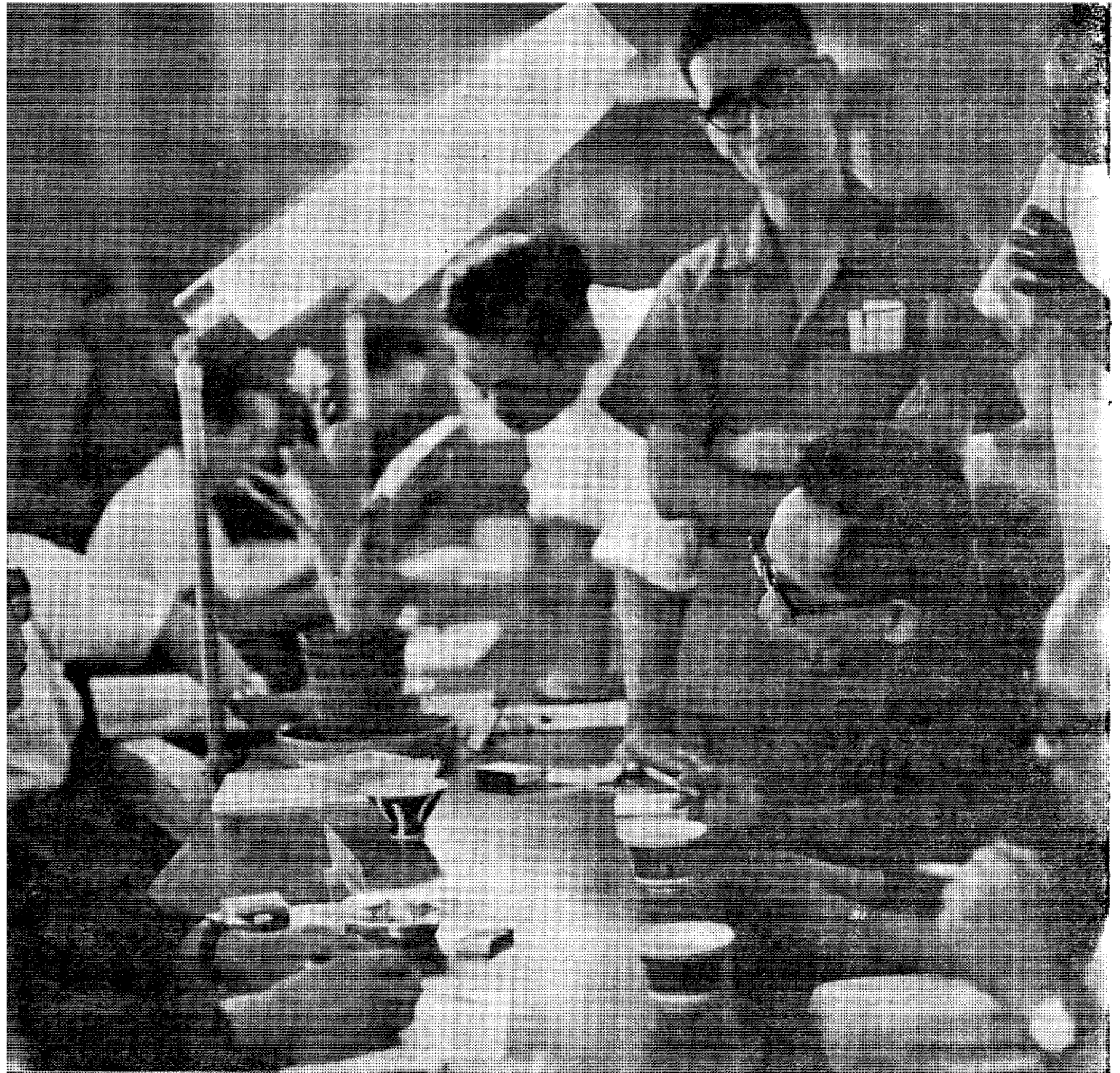
私のお願いは、子供達の教育の場である小学校ですが、大変困る事があります。それは、雨が降りますと、柏尾川添いの学校は低地でもあり、水が必ず出ます。すると汚水が学校に流れ、給食場迄流れ込みます。

ひどい事で、児童の健康を守る給食場に便所の汚水が流れ込み、その時、先生方やPTAの方達は、その都度この掃除に学校へ行き、当分の給食は停止になります。立派な道路が出来、立派な鉄筋ビルが並ぶこの横浜市内に、今時こんなことが、雨が沢山降るとくり返し行なわれているのです。どうか根本的な原因を調査して頂き、すみやかな解決をお願いしたいと思ひまして筆を取った次第です。かしこ



今年完成した給食センター

市民と市政との新しい血潮の流れは、こればかりではありません。これまで、六三回の住民集会が開かれてきました。これは市で主催するのではなく、市民の人たちから、こういう問題について市と話し合いたいという要求があれば、市長をはじめ関係のある局長・部長がその地元にかけて、市民の皆さんとヒザをまじえて話し合うのです。この会合を住民集会和一般にはよんでいます。はやくいえば、市役所が地元に出かけていく移動市役所ともいえます。この集会によって、手紙の往復だけによるのではなく、市民と市が一緒にどうしたらよいかを意見を交すことができるのです。



38年12月に新築なった市民相談室

このほか、それぞれのグループや業種別の団体、労働組合など、あらゆる機会に市民と交流しあうように努力してきました。それは、市政は一部の人たちではなく、全市民のものであり、市民が一人一人平等な権利をもっており、そしてそれを主張できるものだからです。市民こそ市政の主人公であり、その市民の支える力なしには、新しい横浜づくりはできないのです。

もちろん、まだ十分ではありません。しかし、いまでは遠い存在と考えてきた市政が、なにか身近かなものに感じてきたという市民の声があるとすれば、それこそ市政が市民とともに歩みはじめていることを示すものでしょう。